

在宅介護実態調査結果

～第8期介護保険事業計画の策定に向けて～

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査の設計	1
(2) 調査項目	1
(3) 回収結果	1
2. 主な調査結果	2
検討テーマ1: 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制について	2
(1) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」	2
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」	4
検討テーマ2: 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	7
(1) 主な介護者の就労状況別の状況	7
(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護	8
(3) 就労状況別、要介護度・認知症自立度別の就労継続見込み	9
(4) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	10
(5) 就労状況別の施設等検討、効果的な勤め先からの支援	11
検討テーマ3: 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	12
(1) 要介護度別にみた在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの状況	12
検討テーマ4: 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	15
(1) 要介護度別、世帯類型別にみた家族による介護の頻度	15
(2) 要介護度別・認知症自立度別、世帯類型別にみたサービス利用の組み合わせ	16
検討テーマ5: 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	17
(1) 要介護度別・サービスの組み合わせ別、訪問診療の利用割合	17
(2) 訪問診療の利用状況とサービスの利用の有無	18

1. 調査概要

(1) 調査の設計

本調査は、厚生労働省が提示した「在宅介護実態調査実施のための手引き」を参考に、要介護者の在宅生活の継続や介護者の就労継続に有効なサービスのあり方を検討することを目的として実施した。

① 調査対象者

市内の在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている人のうち、令和元年10月から令和元年12月に更新申請・区分変更申請に伴う認定結果を受けた人のうち882人

② 抽出方法

「介護保険システム」からの出力データを用いて無作為抽出

③ 調査方法

郵送による配布・回収

④ 調査時期

令和2年2月1日～2月21日

(2) 調査項目

厚生労働省の調査項目
<input type="radio"/> 世帯類型について
<input type="radio"/> 家族等の介護の有無について
<input type="radio"/> 介護保険以外の支援・サービスの利用状況について
<input type="radio"/> 在宅継続のために必要な支援・サービスについて
<input type="radio"/> 施設等への入居・入所の希望について
<input type="radio"/> 訪問診療の利用について
<input type="radio"/> 介護保険サービスの利用、未利用について
<input type="radio"/> 介護者の勤務状況や就労継続に係る意識について
<input type="radio"/> 介護者が不安に感じている介護について

(3) 回収結果

回収結果は、471票である。

2. 主な調査結果

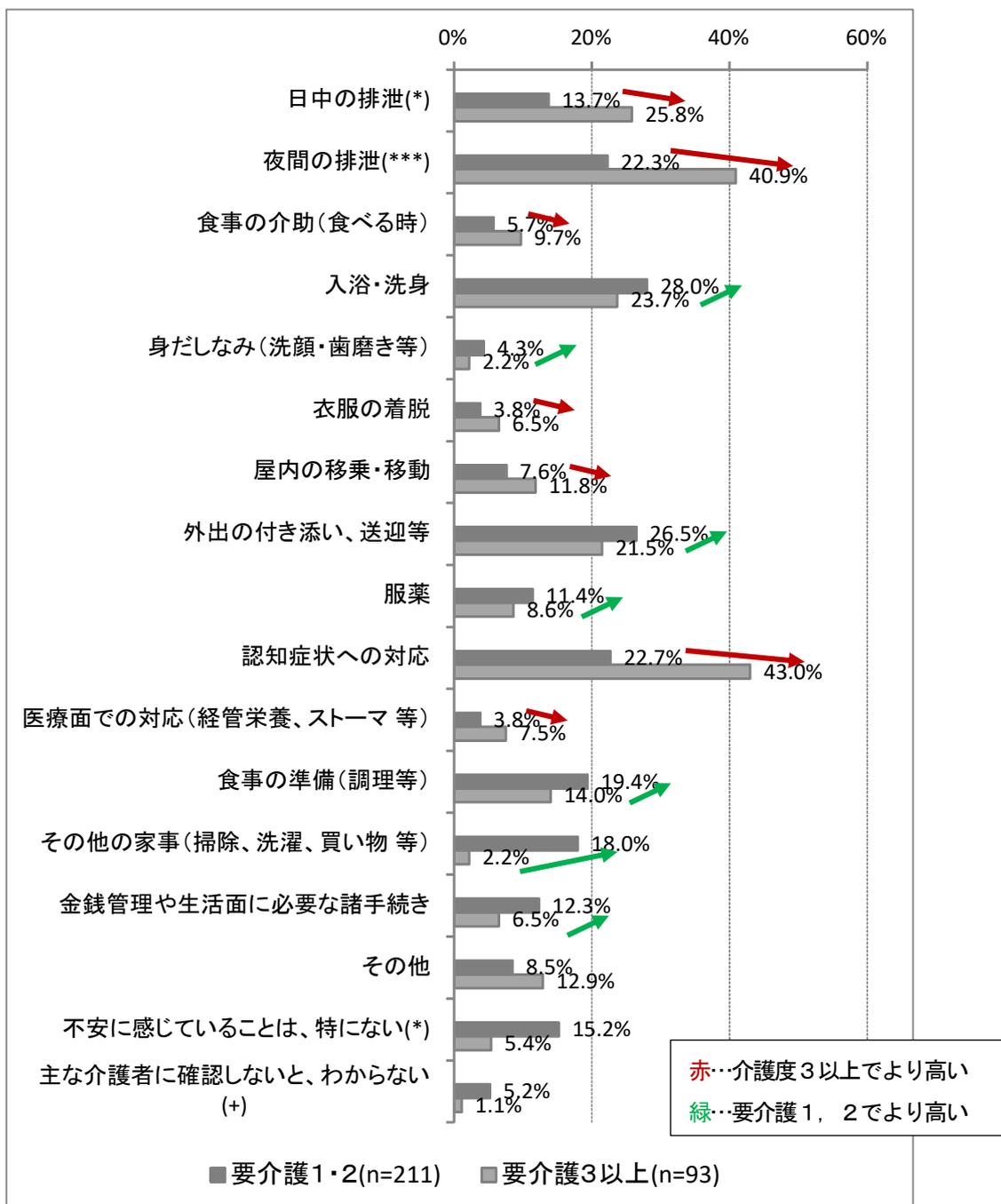
国が示す次の5つの検討テーマに基づいた主な分析結果を掲載している。

検討テーマ1：在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制について

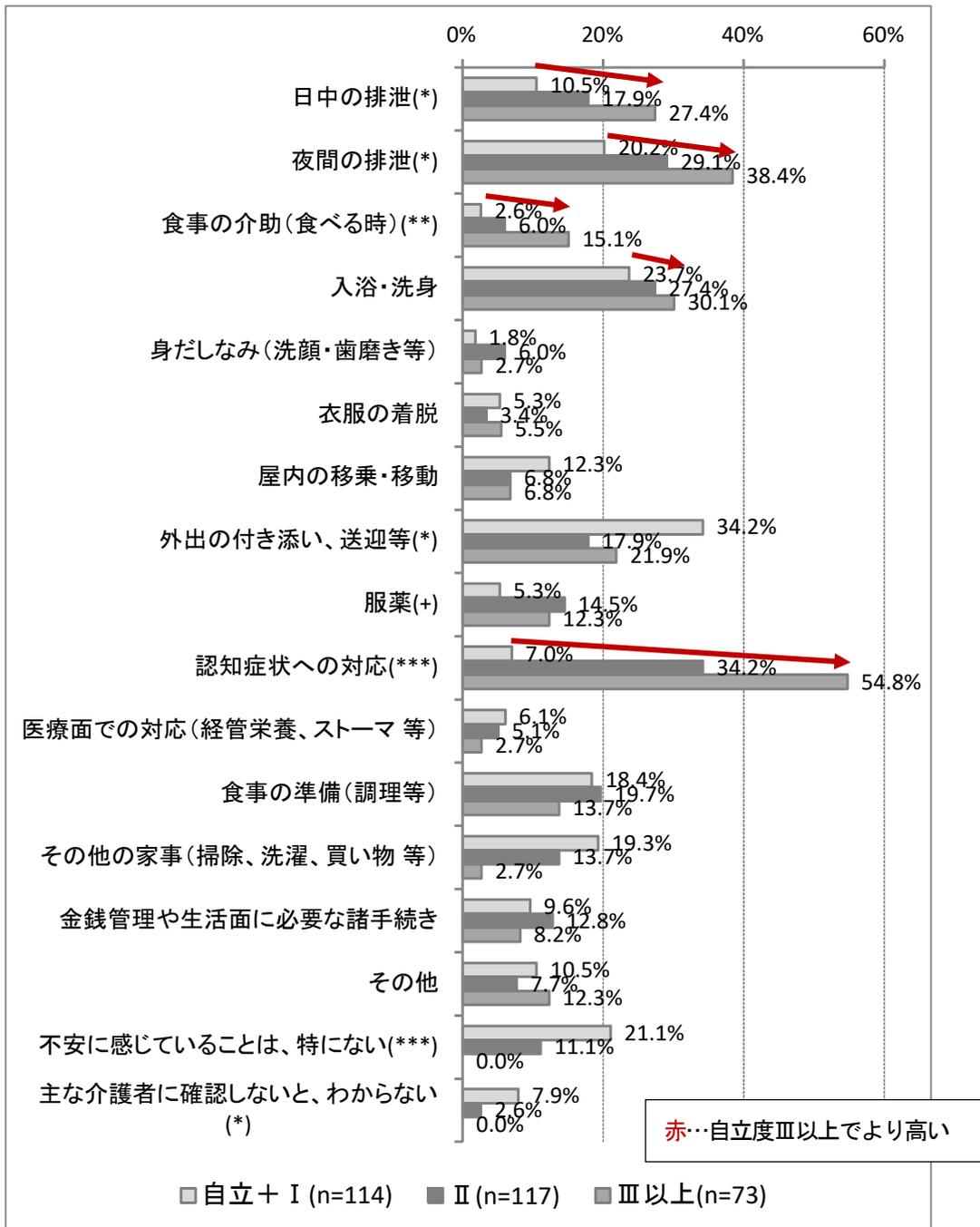
(1) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」

○要介護1, 2では「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」が多く、要介護3以上では「認知症状への対応」や「夜間の排泄」が多くなる。認知症自立度も重度化するほど同様の傾向がある。

図表 1-1 要介護度別・介護者が不安を感じる介護



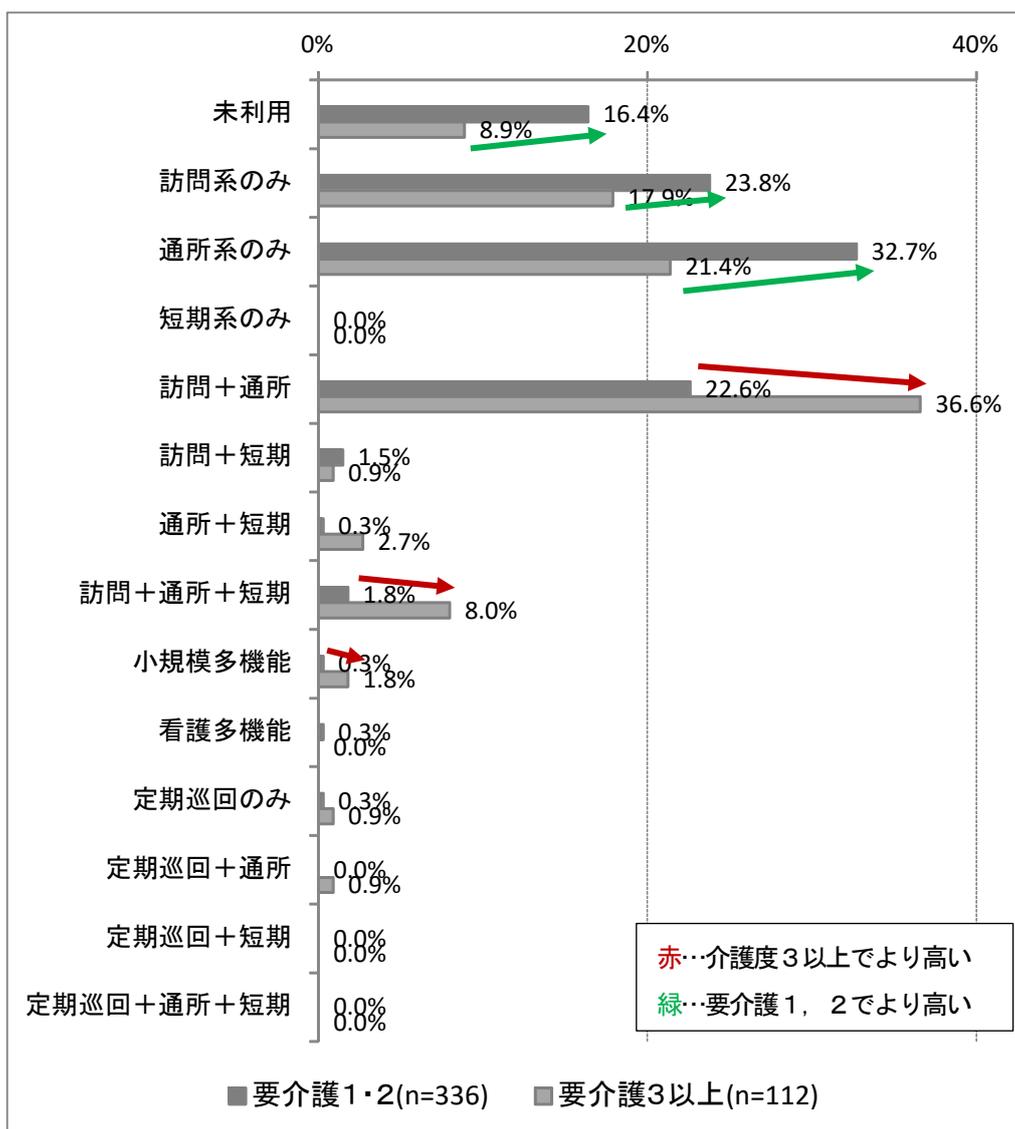
図表 1-2 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



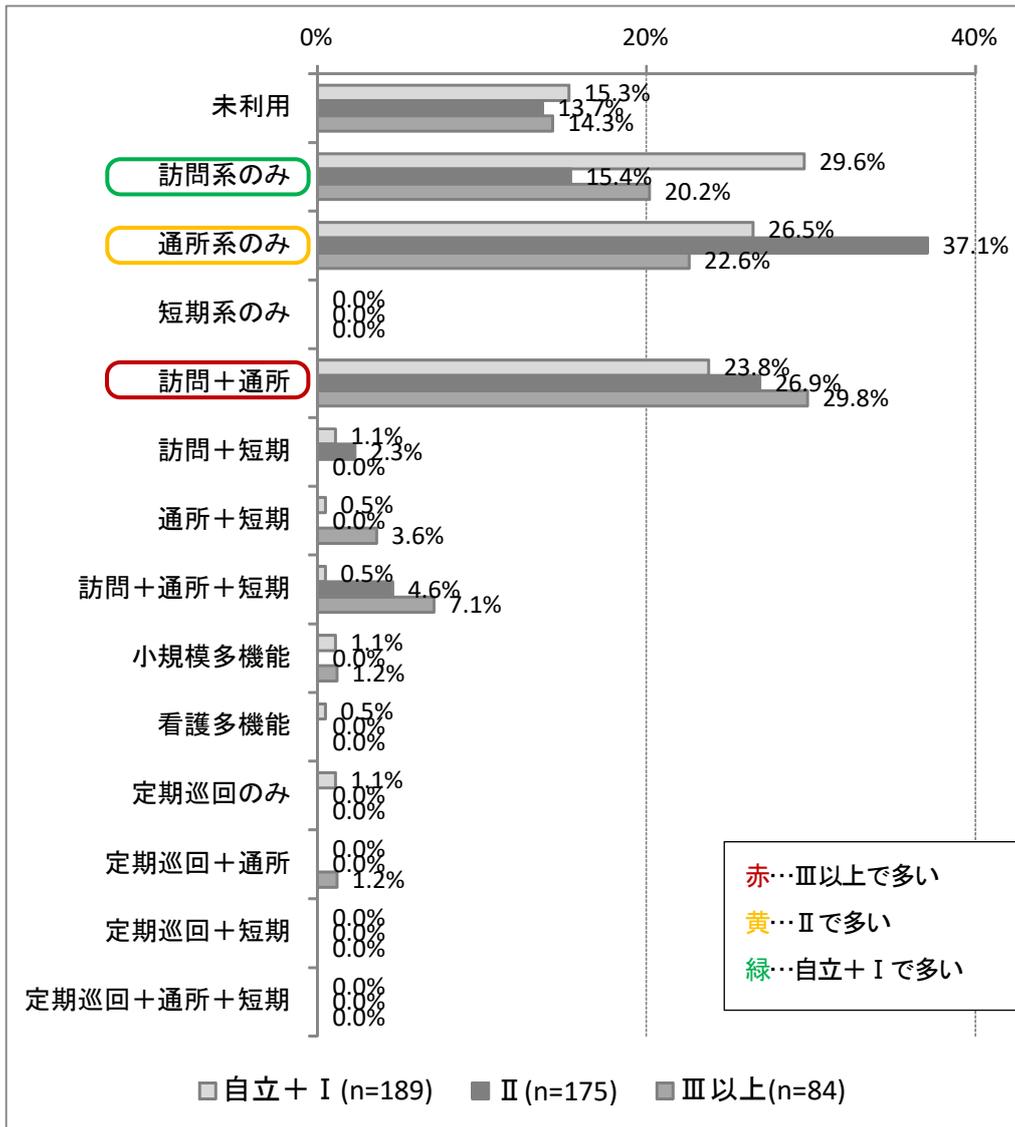
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」

- 要介護1, 2では「通所系のみ」や「訪問系のみ」が多いが、要介護3以上ではそれらを組み合わせた「訪問+通所」が多くなる。認知症自立度も重度化するほど同様の傾向がある。
- 認知症の自立度別では、自立もしくは自立度Ⅰでは「訪問系のみ」が、自立度Ⅱでは「通所系のみ」が多いが、自立度Ⅲ以上では「訪問+通所」が多くなる。
- 要介護度、認知症自立度が重度化するほど、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用を組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」が多くなっている。

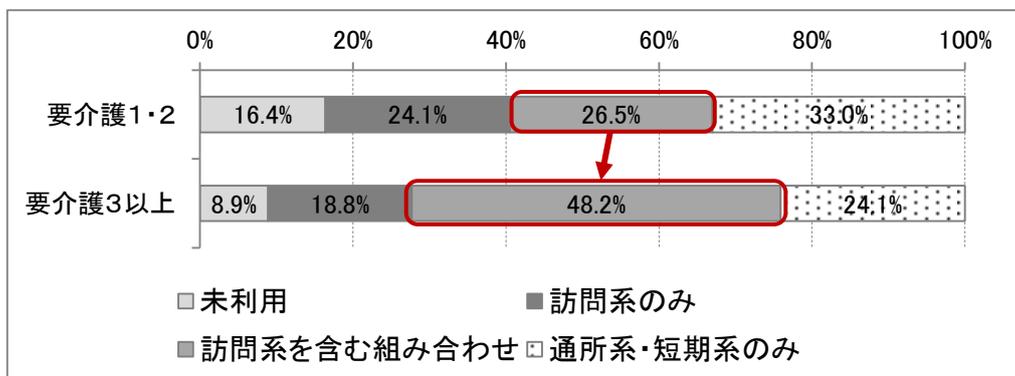
図表 1-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



図表 1-4 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ (**)



図表 1-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ

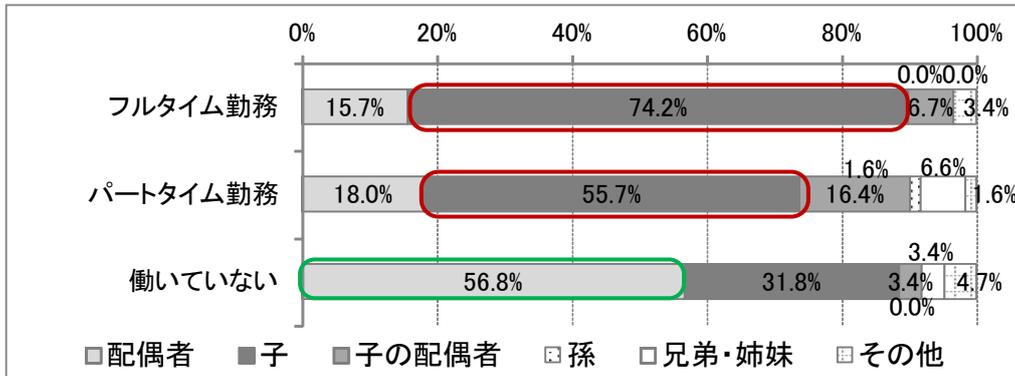


検討テーマ2：仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

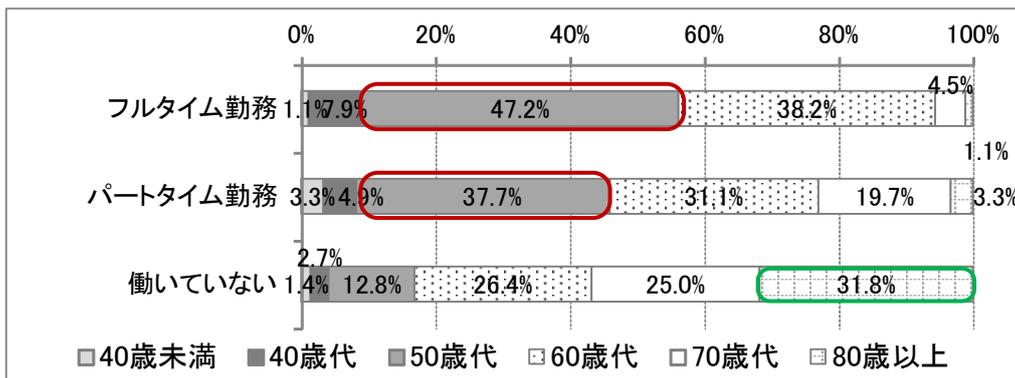
(1) 主な介護者の就労状況別の状況

○主な介護者の就労状況別の状況は、フルタイム勤務は「子」「50代」が多く、働いていない場合は「配偶者」「80代以上」が多い。パートタイム勤務では「女性」が8割を占めるが、そのほかには男女比は4：6となっている。

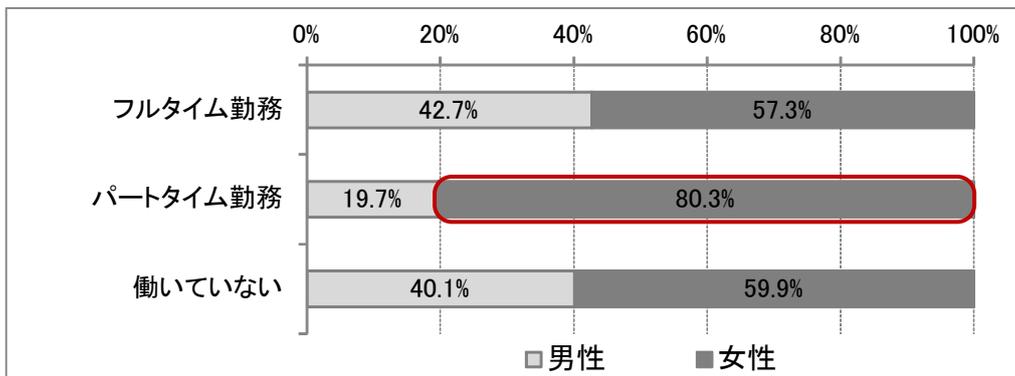
図表 2-1 就労状況別・主な介護者の本人との関係



図表 2-2 就労状況別・主な介護者の年齢



図表 2-3 就労状況別・主な介護者の性別

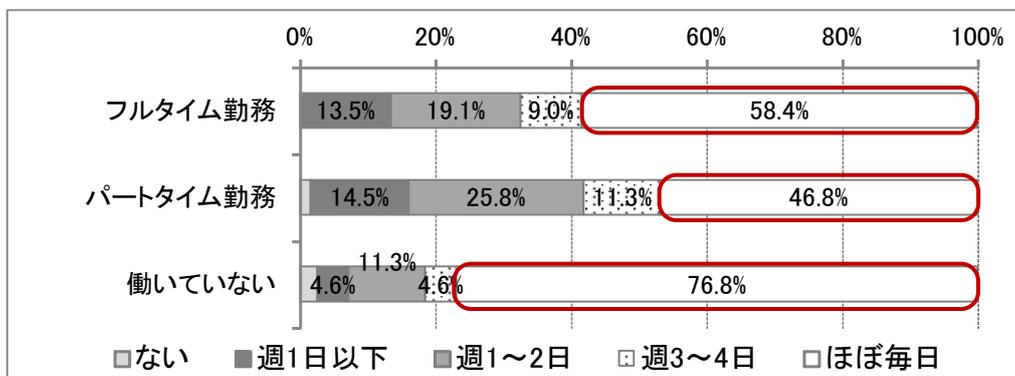


(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護

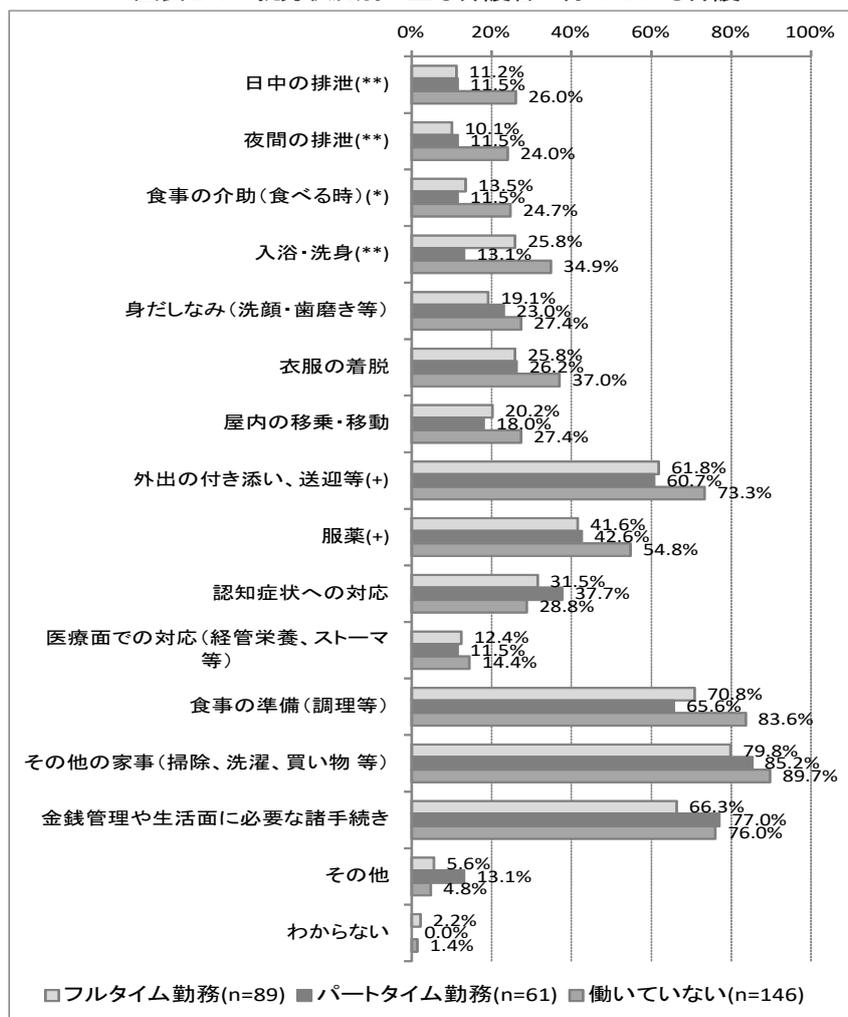
○介護の頻度は「ほぼ毎日」が多く、働いていない場合は8割、フルタイム勤務でも6割近くを占める。

○行っている介護は「食事の準備」や「その他の家事」、「金銭管理等」が多いが、多岐にわたる。

図表 2-4 就労状況別・家族等による介護の頻度



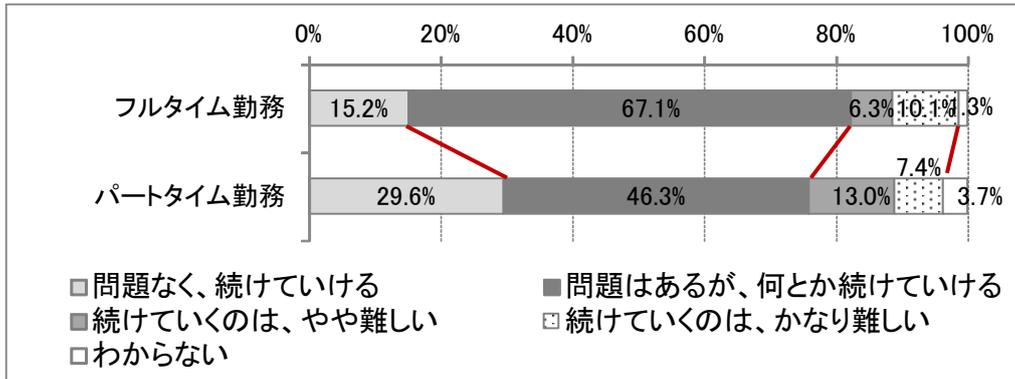
図表 2-5 就労状況別・主な介護者が行っている介護



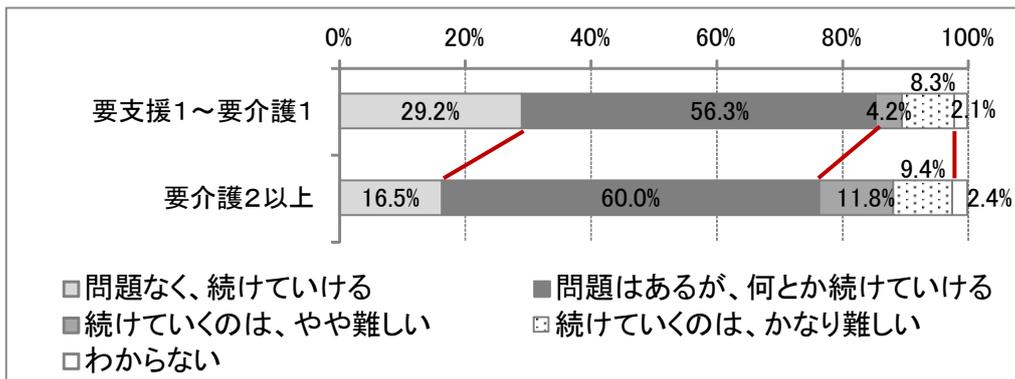
(3) 就労状況別、要介護度・認知症自立度別の就労継続見込み

- フルタイム勤務で「問題なく、続けていける」は15%程度で7割近くが「問題はあるが、何とか続けていける」状況である。
- 要介護度、認知症自立度が重度化するほど、「問題なく、続けていける」は減り、「続けていくのは(やや+かなり)難しい」が多い。

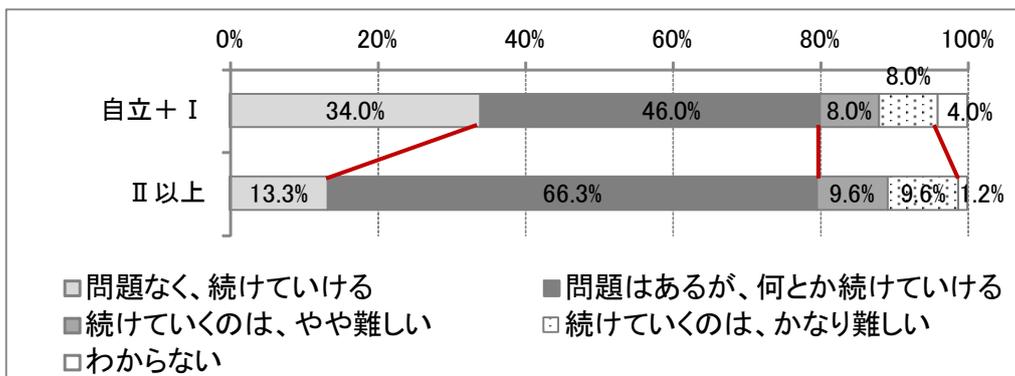
図表 2-6 就労状況別・就労継続見込み



図表 2-7 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



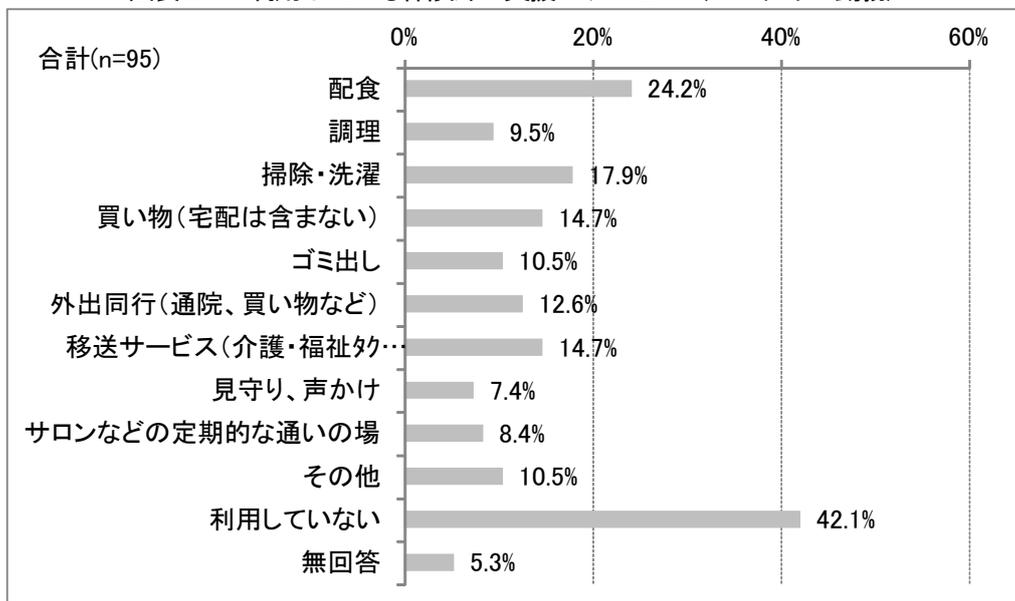
図表 2-8 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



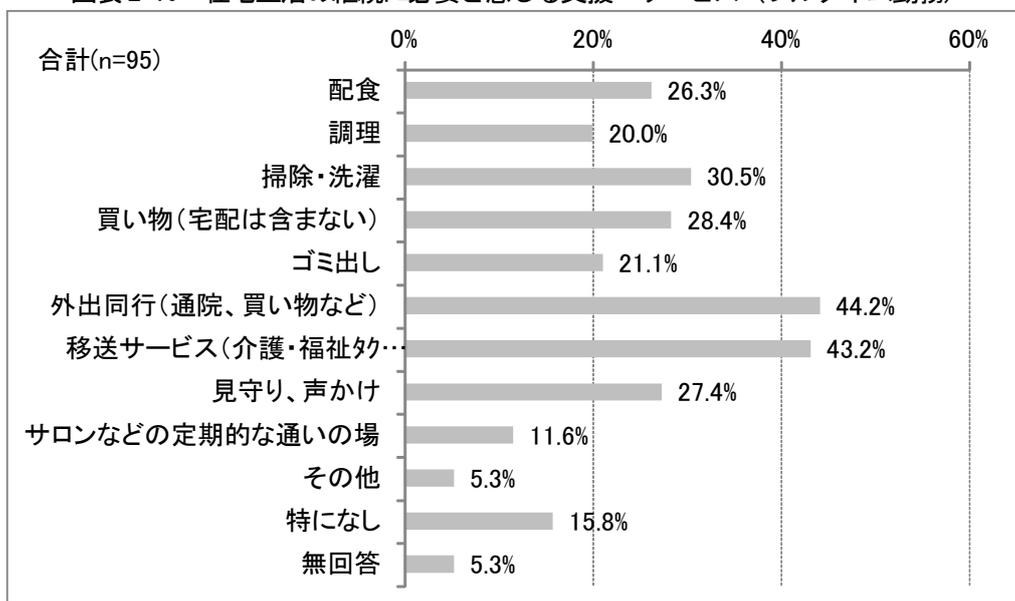
(4) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

○介護者がフルタイム勤務の場合、利用している保険外サービスは「配食」「掃除・洗濯」「買い物」「移送サービス」が多いが、在宅生活の継続のために必要と感じるサービスでは「外出同行」と「移送サービス」が多い。

図表 2-9 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



図表 2-10 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）

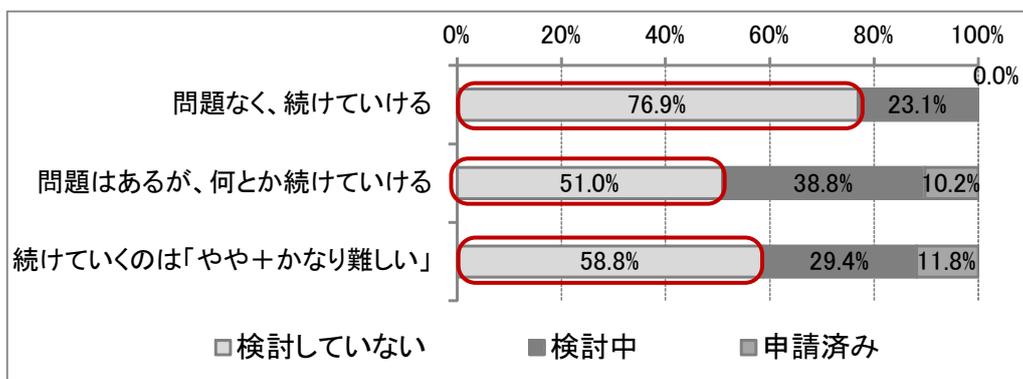


(5) 就労状況別の施設等検討、効果的な勤め先からの支援

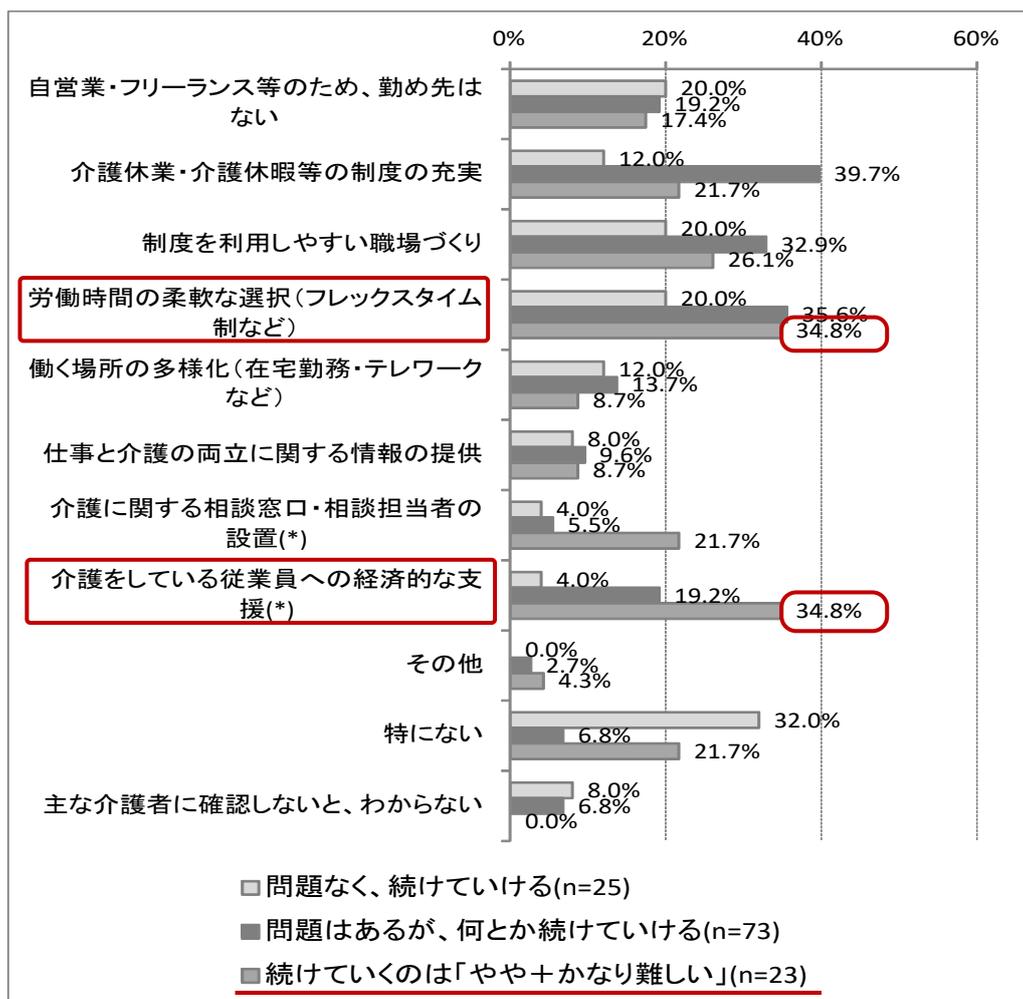
○介護者の就労状況に問題なく継続可能な場合、施設等への入所は「検討していない」が8割弱だが、問題があるが何とか続けている場合は「検討中」と「申請済み」で半数近くになる。

○就労継続が難しい場合でも6割近くが施設入所等を「検討していない」が、勤務先からは「介護している従業員への経済的支援」を求めていることから、経済的負担が要因として考えられる。

図表 2-11 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



図表 2-12 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



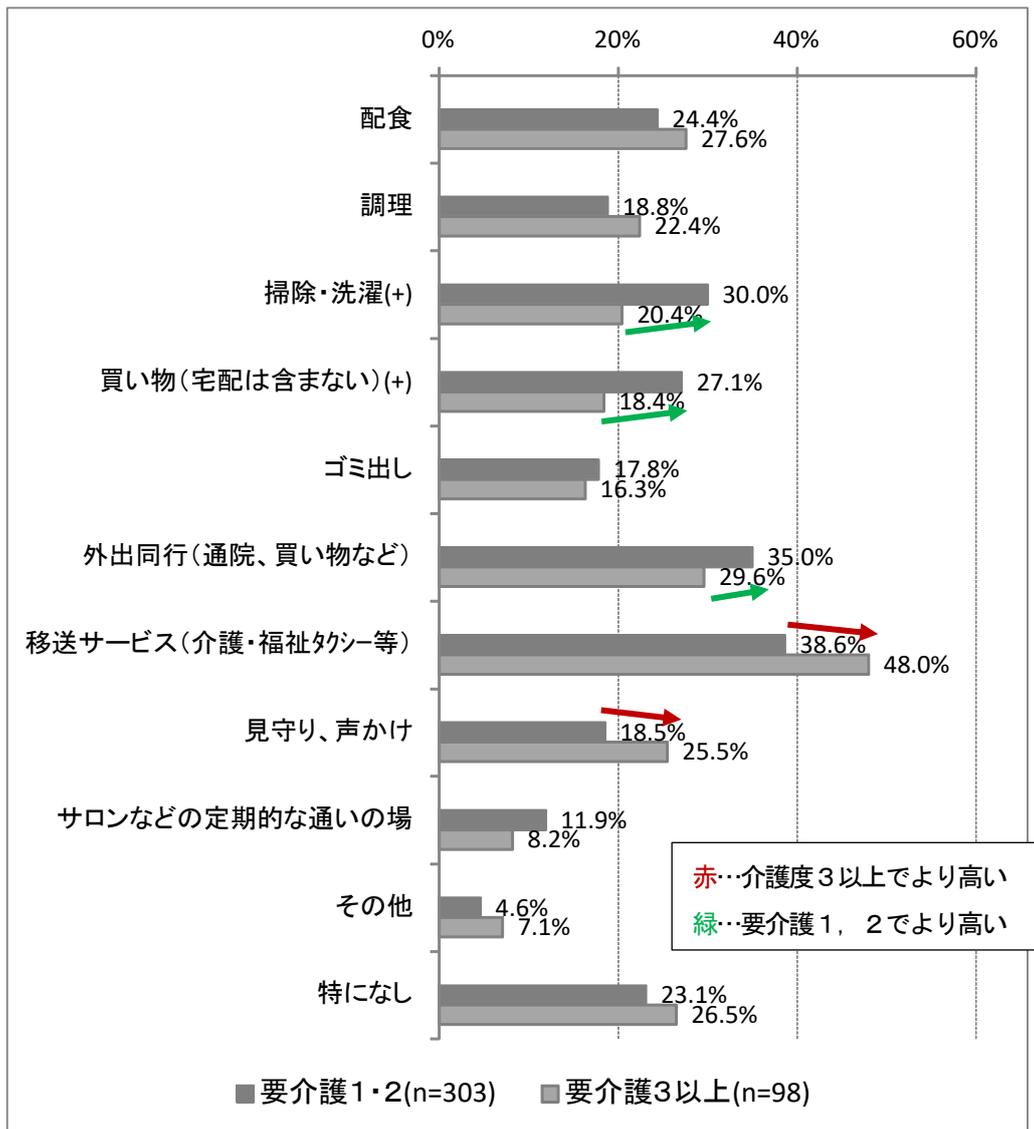
検討テーマ3：保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

(1) 要介護度別にみた在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスの状況

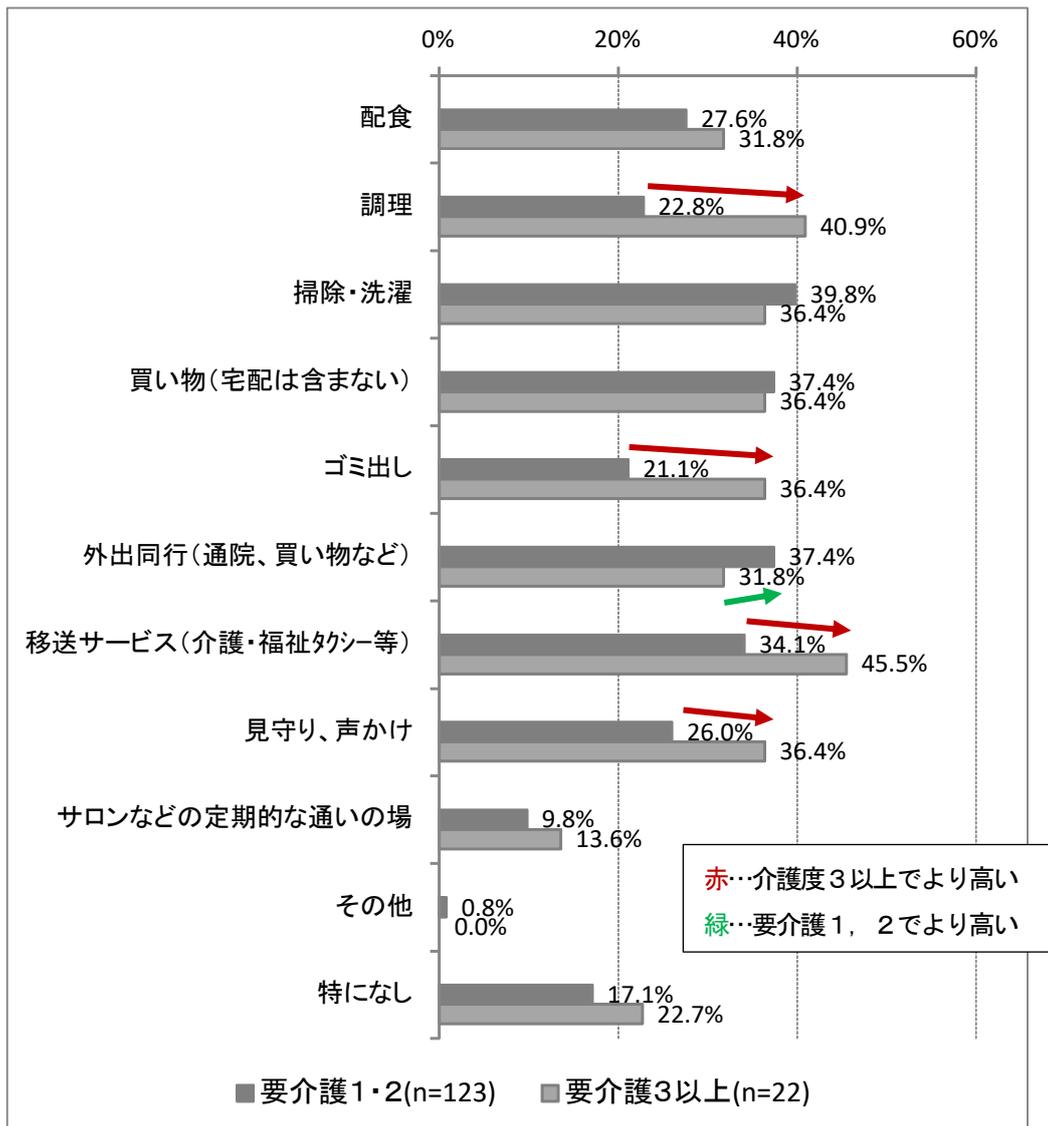
○要介護1・2では「外出同行」「掃除・洗濯」「買い物」が多く、要介護3以上では「移送サービス」や「外出同行」のほか、「見守り、声かけ」も多くなっている。

○介護度の重度化に伴い、単身世帯では「調理」「ごみ出し」「移送サービス」が、夫婦のみ世帯では「見守り、声かけ」「ごみ出し」のニーズが高まる。

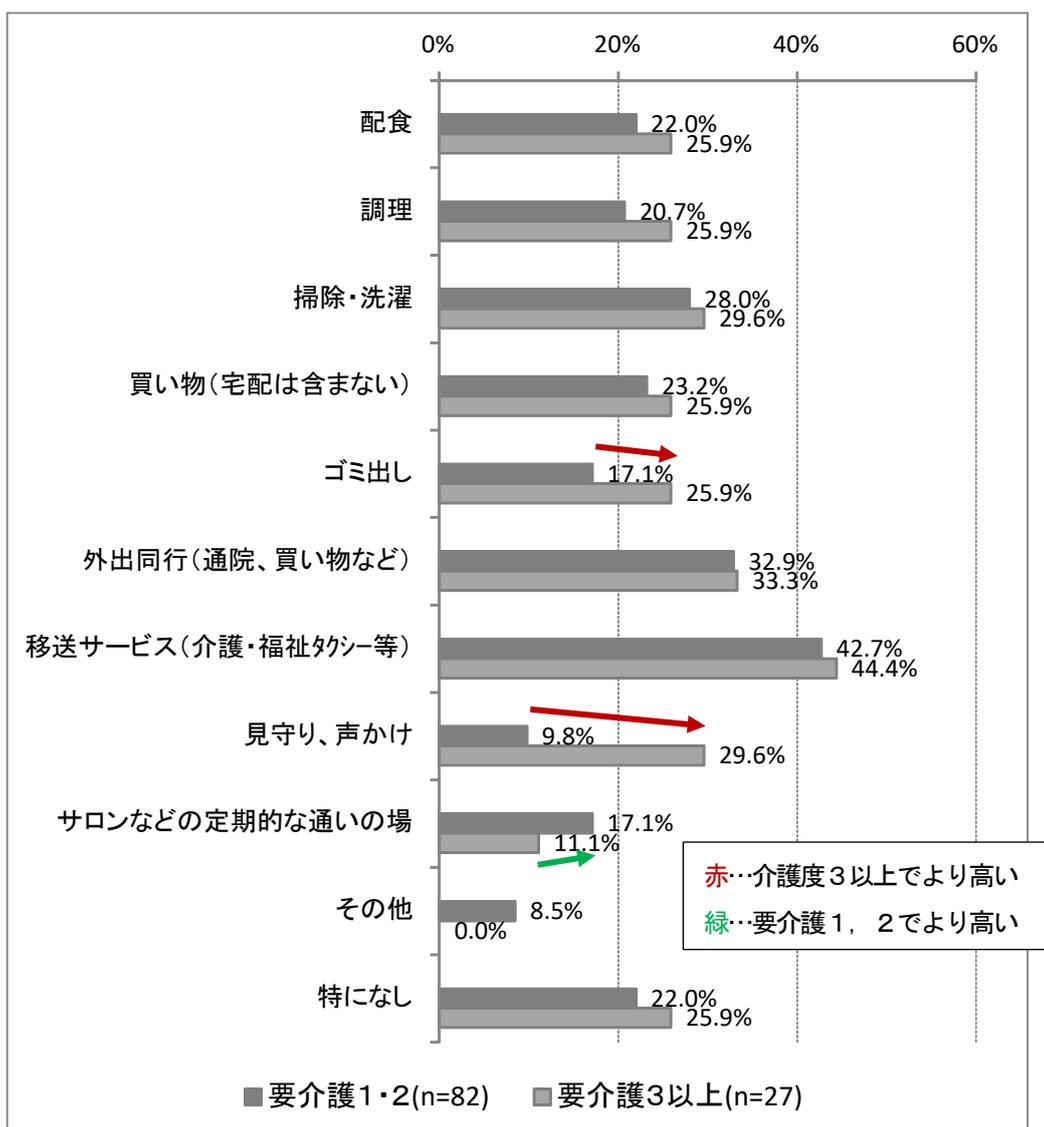
図表 3-1 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



図表 3-2 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



図表 3-3 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）

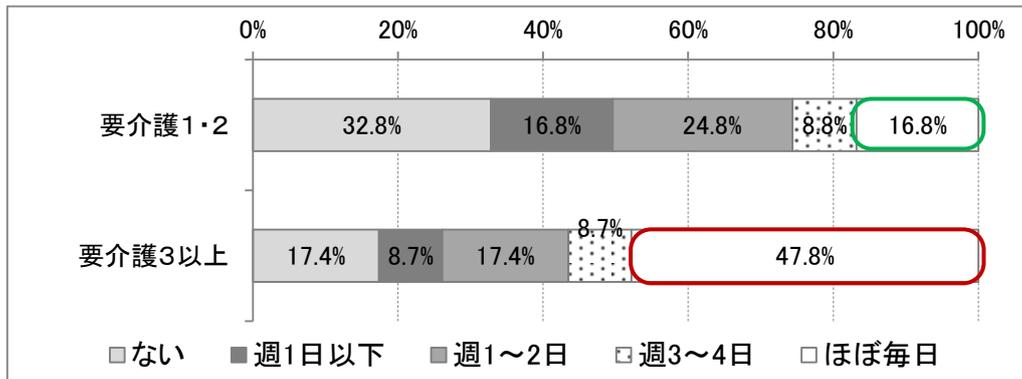


検討テーマ4：将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

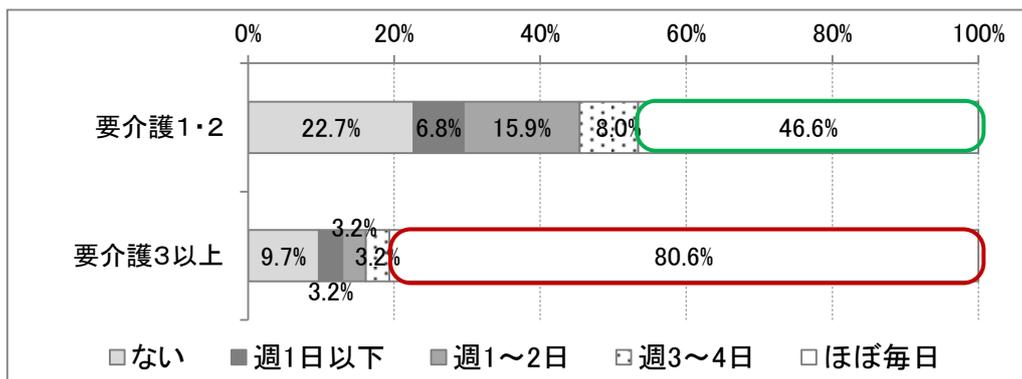
(1) 要介護度別、世帯類型別にみた家族による介護の頻度

- 要介護度が重度化するほど、家族による介護が「ほぼ毎日」の割合が多くなる。
- 世帯類型別では、同じ要介護度でも単身より夫婦のみが、夫婦のみよりその他の世帯と、世帯人数が多いほど、家族による介護が「ほぼ毎日」の割合が多くなる。

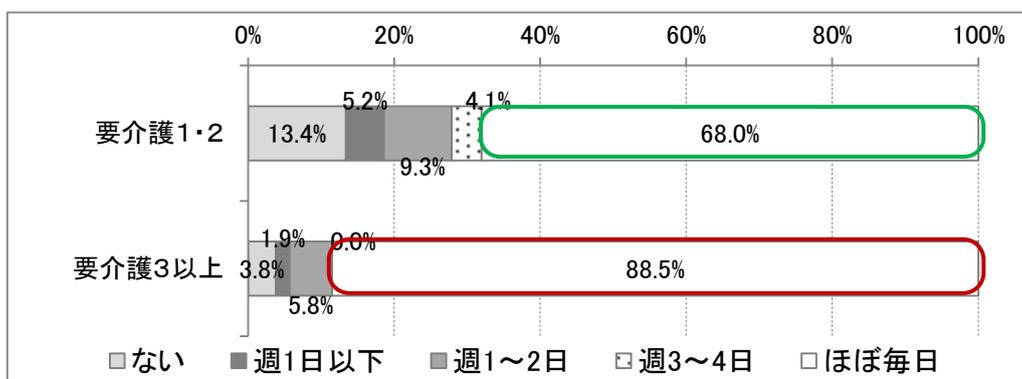
図表 4-1 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



図表 4-2 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



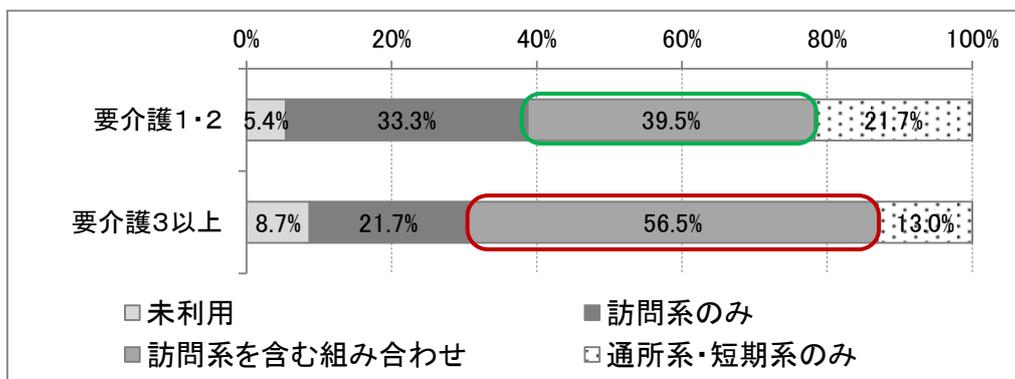
図表 4-3 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



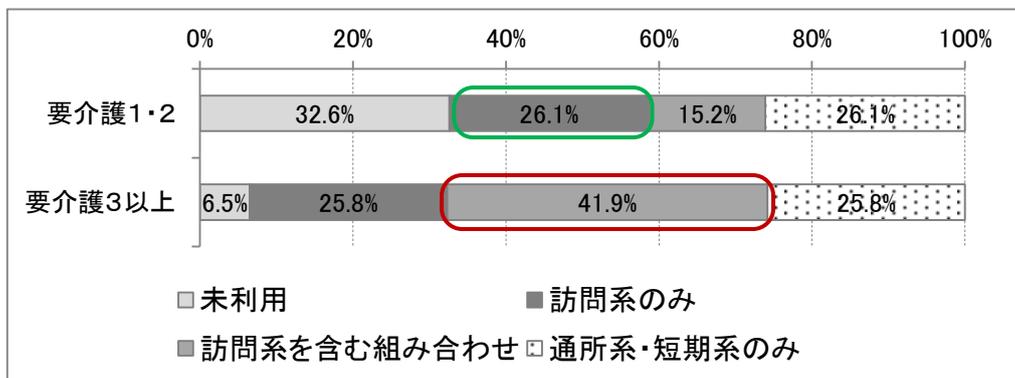
(2) 要介護度別・認知症自立度別、世帯類型別にみたサービス利用の組み合わせ

○世帯類型でみると、単身世帯、夫婦のみ世帯、その他の世帯のいずれも介護度が重度化するほど「訪問系を含む組み合わせ」が増える。

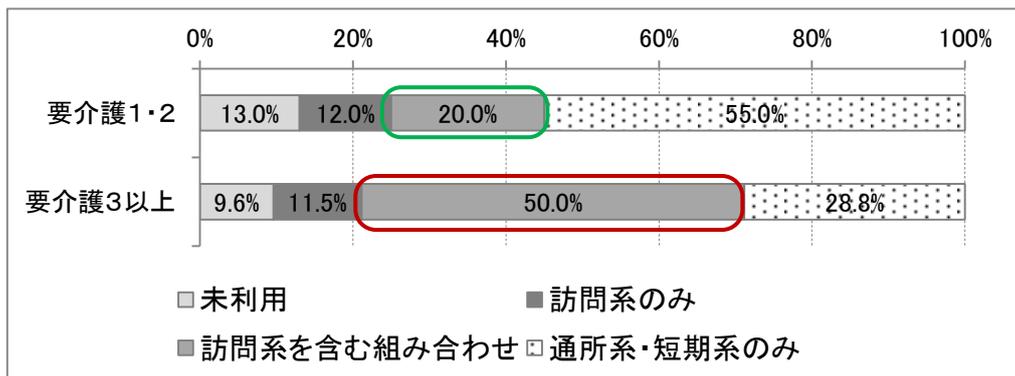
図表 4-4 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表 4-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

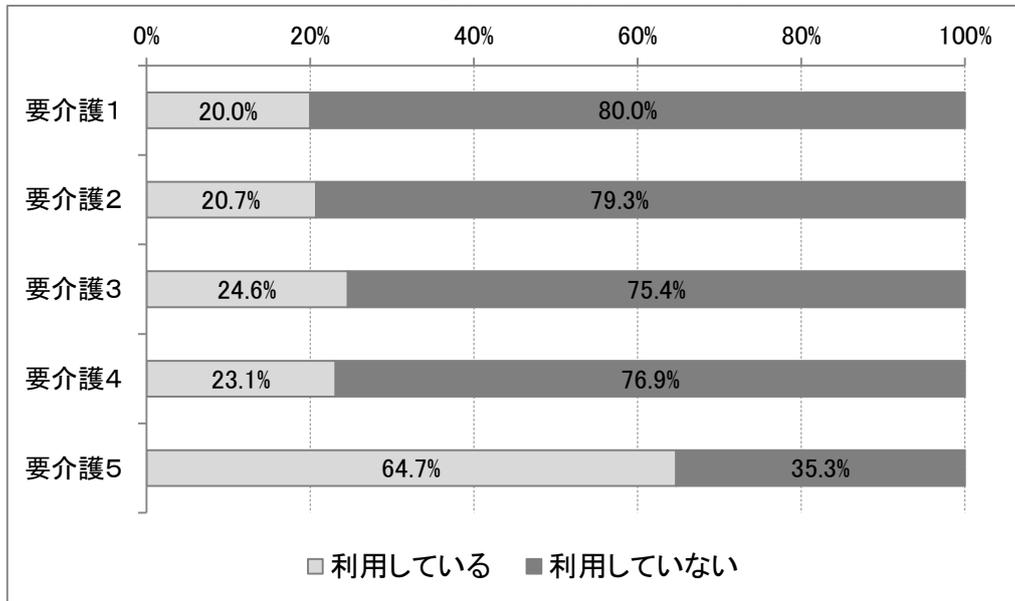


検討テーマ5：医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

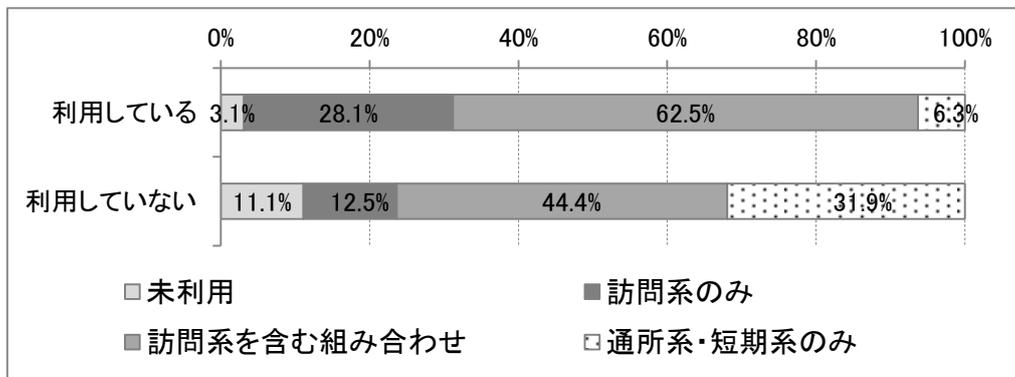
(1) 要介護度別・サービスの組み合わせ別、訪問診療の利用割合

- 要介護5では6割以上が訪問診療を「利用している」状況である。
- 訪問診療を「利用している」要介護3以上では、「訪問系」もしくは「訪問系を含む組み合わせ」のサービス利用が9割を占める。

図表 5-1 要介護度別・訪問診療の利用割合



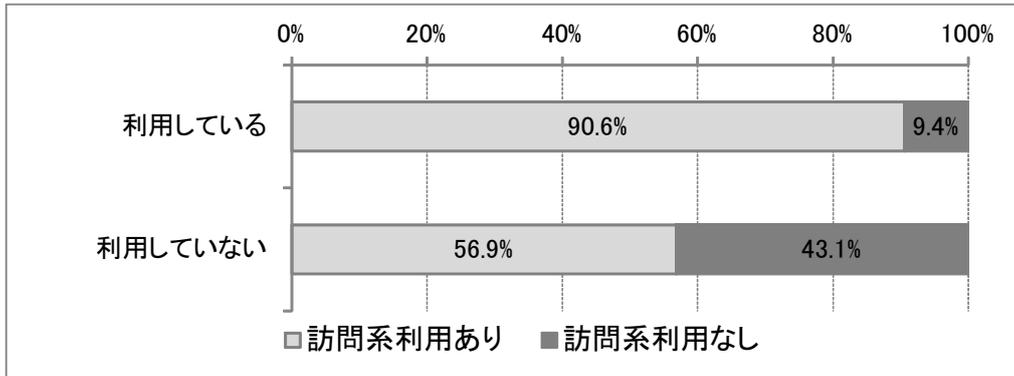
図表 5-2 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ (要介護3以上)



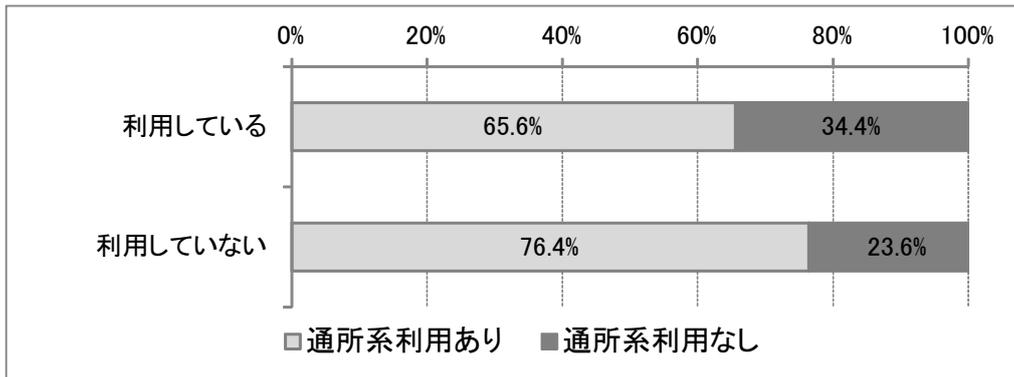
(2) 訪問診療の利用状況とサービスの利用の有無

- 要介護3以上で訪問診療を「利用している」場合、その他の「訪問系（サービスの）利用あり」が9割を占める。
- 訪問診療を「利用している」場合、「利用していない」に比べ「短期系（サービスの）利用あり」も多くなっている。

図表 5-3 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



図表 5-4 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



図表 5-5 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）

